

第2期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略



京都府木津川市

一目次一

1. 市総合戦略の目的	1
2. 市総合戦略の位置付け	1
2. 1 国・京都府の総合戦略との関係	
2. 2 市人口ビジョンとの関係	
3. 計画期間	1
4. 市総合戦略の体系	2
5. 基本目標と施策について	3
6. 基本目標ごとの具体施策	4
6. 1 学研都市としての特性を活かした産業の活性化、 企業誘致・立地による雇用と就業の創出	4
6. 2 「交流人口」「関係人口」の増加、地域住民による「地域活性化・観光」の展開	5
6. 3 「子育て支援 No. 1」を目指した施策の充実	6
6. 4 小さな拠点を活用した誰もが活躍できる個性と魅力あふれる 地域コミュニティの充実	7
6. 5 地元教育機関や企業との連携によるまちの活性化	8
6. 6 まちづくりに取り組む、取り組もうとする人材の支援・創出	9
7. 推進体制、効果検証の仕組み	10
7. 1 推進体制	
7. 2 効果検証	
資料	11
1. 木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 委員名簿	12
2. 策定経過	13
2. 1 まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会・本部会議	
2. 2 市民参加の取組み	
3. 第1期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略・中間評価	14
4. 用語集	15

1. 市総合戦略の目的

○市総合戦略は、市人口ビジョンで示された木津川市の人口の現状と動向に基づき、将来のまちの姿と人口目標の実現に向け、今後 5 か年の目標や施策の基本目標、具体的な施策を定め、その進捗・達成状況の評価を行うことを目的とします。

2. 市総合戦略の位置付け

2.1 国・京都府の総合戦略との関係

○市総合戦略は、国の創生総合戦略に加え、京都府地域創生戦略との整合性を確保し、目標の実現に向け、国や京都府と連携し推進します。

2.2 市人口ビジョンとの関係

○市総合戦略は、市人口ビジョンを実現するために、今後 5 か年に実施する施策と推進方策を示した戦略プランであり、あわせてまちづくりの最上位計画である市総合計画（2019（平成 31）年度から 2028（令和 10）年度まで）の施策・事業との整合を図ります。

3. 計画期間

○2020（令和 2）年度から 2024（令和 6）年度までの 5 年間とします。

表 3-1 市総合戦略の目的と期間

目的	市人口ビジョンで示された木津川市の人口の現状と動向に基づき、将来のまちの姿と人口目標の実現に向け、今後 5 か年の目標や施策の基本目標・具体的な施策を定め、その進捗・達成状況の評価を行う。
期間	2020（令和 2）年度から 2024（令和 6）年度までの 5 年間

4. 市総合戦略の体系

○市総合戦略の基本方針

- ・近年、全国的な少子高齢化、人口減少の中で、木津川市は多くの子育て世代に魅力あるまちとして選ばれ、人口が着実に増加していることから、子育て・子育ちのまちづくりを一層充実させることとし、戦略の柱は「子育て」、戦略のスローガンは「子ども育マチ・きづがわいい」とする第1期市総合戦略を継承することとしました。
- ・若者を中心とした人口流出の抑制、出産・子育て環境の整備、雇用の確保、情報通信技術の活用、市内外の連携・交流促進といった木津川市の課題を踏まえ、「Society5.0」の実現に向けた技術の活用や、持続可能な開発目標「SDGs」を原動力とした地方創生などの新しい時代の流れを力にして、一人でも多くの方により魅力あるまちづくりを実感いただくため、第1期市総合戦略の3つの姿勢を継承しつつ、6つの基本目標を定めました。

戦略スローガン	
子ども育マチ・きづがわいい	
<p>「かわいい」と「木津川良い」を合わせ「Lovely & Good」という意味の造語です。「かわいい」には、愛される、惹きつける、癒される、魅力あるという複合的な意味もあり、「広く・長く・愛される」まちとして伸びていく想いをこめています。</p>	
姿勢 1 誰もが「住みたい」と思えるまち	歴史・文化・自然豊かで良質な住環境や学研都市の最先端技術が共存し、鉄道・道路などの多様な交通利便性を兼ね備えるなど、魅力ある「住みたいまち」の実現による移住・定住の促進を目指します。
姿勢 2 誰もが「住み続けたい」と思えるまち	若い世代、とりわけ子育て世代のために、仕事と家庭の両立がかなう環境づくりや、学研都市の企業集積、産業の振興・活性化による安定した市内における雇用確保を実現し、「住み続けたい」まちづくりを推進します。
姿勢 3 誰もが「住んでよかった」と思えるまち	地域と、地域や市外との交流、また、新しく移り住んできた人同士や、既存住民との交流などを通じて、地域に対する理解や愛着、誇りを醸成し、「住んでよかった」と思えるまちづくりを推進します。
基本目標1	学研都市としての特性を活かした産業の活性化、企業誘致・立地による雇用と就業の創出
基本目標2	「交流人口」「関係人口」の増加、地域住民による「地域活性化・観光」の展開
基本目標3	「子育て支援 No.1」を目指した施策の充実
基本目標4	小さな拠点を活用した誰もが活躍できる個性と魅力あふれる地域コミュニティの充実
基本目標5	地元教育機関や企業との連携によるまちの活性化
基本目標6	まちづくりに取り組む、取り組もうとする人材の支援・創出

図 4-1 総合戦略の枠組み

5. 基本目標と施策について

○基本目標ごとの施策を以下に示します。

基本目標 1 学研都市としての特性を活かした産業の活性化、企業誘致・立地による雇用と就業の創出

- ①最先端の研究成果を活かした新産業・新事業の創出
- ②安定した付加価値の高い農業の振興
- ③創業支援など雇用対策の充実

基本目標 2 「交流人口」「関係人口」の増加、地域住民による「地域活性化・観光」の展開

- ①歴史遺産等の保全・活用によるまちづくり
- ②歴史文化遺産を活用した観光振興の促進
- ③安心して観光できる案内機能の充実
- ④学研木津北地区の利活用
- ⑤山城町森林公園の利活用

基本目標 3 「子育て支援 No. 1」を目指した施策の充実

- ①安心して、楽しみながら子育てができる支援の充実
- ②保育ニーズの対応と待機児童ゼロの継続
- ③新しい時代の流れを力にした最先端の教育環境の充実

基本目標 4 小さな拠点を活用した誰もが活躍できる個性と魅力あふれる地域コミュニティの充実

- ①地域公共交通ネットワークの充実
- ②公共施設の利活用
- ③安心・安全な暮らしの向上

基本目標 5 地元教育機関や企業との連携によるまちの活性化

- ①京都大学大学院農学研究科附属農場等との連携
- ②立地企業との協働や様々な教育機関との連携

基本目標 6 まちづくりに取り組む、取り組もうとする人材の支援・創出

- ①多様・多彩な、人と人とのつながりのあるまちづくりの実現
- ②伝統産業やアートを中心としたヒトづくり
- ③移住・定住の促進
- ④健康長寿のまちづくり

6. 基本目標ごとの具体施策

6.1 学研都市としての特性を活かした産業の活性化、企業誘致・立地による雇用と就業の創出

施策目標	○最先端の研究成果が集う学研都市の特色を活かした企業集積や都市近郊農業の活性化を図りながら、雇用と就業の創出に取り組みます。 ○特に、市内における地産地消の推進や、学校給食における安心安全な地域農産物の提供に重点的に取り組むことで、子育て・子育ちのまちづくりを推進します。	
KPI・目標数値	1. 生産年齢人口 46,180 人(R1) → 48,500 人(R6) 2. 新規就農者延べ人数 12 人(H30) → 15 人(R6) 【子育て未来-KPI】 子育てイベント参加者数 (学研関連) : 2,458 人(H30) → 3,000 人(R6)	
	詳細	重要業績評価指標(KPI) 現況値 → R6 目標値
	①最先端の研究成果を活かした新産業・新事業の創出 わが国的新時代を創造する文化・学術・研究の拠点としての役割を担う学研都市において、学研施設・研究機関等の知の集積を活用して新たな産業の創出を支援します。また、その周辺部において学研施設・研究機関等と連携した産業との活性化を推進する等、学研都市の様々な効果を活用し、新たな産業や事業を創出するための取組みを支援するとともに、立地規模や創業段階に応じた段階的な助成など企業ニーズに対応し、企業誘致を推進します。	新規事業場設置支援延べ件数 0 件 (R1)→6 件 (R6)
	<主な事業> ○企業立地促進事業費助成金事業(木津川市企業立地促進条例によるもの)	<所管課> 観光商工課
	②安定した付加価値の高い農業の振興 担い手不足や高齢化等により、中山間地域をはじめ、遊休農地や里地里山の荒廃化が今後さらに加速化し問題となることが予想されるため、早急な取り組みが必要となっています。それらを解決するため、農業のさらなる振興を図るとともに、営農基盤づくりや担い手の育成を進め、地産地消の推進といった付加価値の向上に取り組むとともに、京野菜等の販路拡大を進めます。	農林産物直売所等延べ件数 12 箇所 (H30) →15 箇所 (R6)
施策	<主な事業> ○木津川市みのりフェア事業 ○地産地消推進事業(市内消費) ○地産地消推進事業(学校給食) ○農林産物直売所整備支援事業 ○圃場整備事業 ○認定農業者支援事業 ○新規就農者支援事業 ○獣害等に強い農産物生産支援事業	<所管課> 農政課 農政課 農政課、学校教育課 農政課 農政課 農政課 農政課 農政課 農政課
	③創業支援など雇用対策の充実 就業や雇用等の労働条件や就業ニーズが多種・多様化するなか、雇用の安定と促進を図るため、関係機関との連携を強化し、就業機会の確保や就業能力の開発等の支援に努めます。また、雇用吸収力の高い企業の誘致や既存企業の活力向上等の支援により、魅力ある雇用の場の確保に努めます。さらには、新産業の創出を目的とした交流会などの開催に取り組みます。	市内事業所数 1,878 事業所(H30)→1,950 事業所(R6) 新規創業者支援延べ件数 0 件(R1)→20 件(R6) 立地及び助成対象企業による市民雇用者人数 598 人(H30)→900 人(R6)
	<主な事業> ○小規模企業おうえん融資保証料補助事業 ○プレミアム商品券発行事業 ○特定創業支援事業	<所管課> 観光商工課 観光商工課 観光商工課

6.2 「交流人口」「関係人口」の増加、地域住民による「地域活性化・観光」の展開

施策目標	○地域に暮らす人々が市の魅力を再発見するとともに、それを活用することで新たな魅力を醸成し、市内外の多くの人と交流できるよう魅力の創造と人々の交流促進に取り組みます。 ○特に、子どもたちが、まちへの愛着を深めることができる木津川市の歴史文化遺産を活用した学習プログラム、里地里山を活用した世代間交流の促進などに重点的に取り組むことで、子育て・子育ちのまちづくりを推進します。	
KPI目標数値	1.ふるさと納税件数：484件(H30) → 844件(R6) 2.観光入込客数：965,000人(H30) → 1,013,250人(R6) 3.観光消費額：2,110,000千円(H30) → 2,215,500千円(R6) 【子育て未来-KPI】 地域連携保全活動応援団活動参加者数：0人(H30)→ 50人(R6)	
施策	詳細	重要業績評価指標(KPI) 現況値 → R6目標値
	①歴史遺産等の保全・活用によるまちづくり 本市には、自然環境と調和した史跡・神社仏閣・伝統的祭り等の有形無形の歴史文化遺産、伝統的な街並み・農山村集落等といった貴重な歴史遺産を数多く有しています。それらを次世代に継承し、また、観光や憩いの空間として活用を図り、本市の魅力をさらに高めるまちづくりに取り組みます。	文化財出前講座参加者数 950人(R1)→1,100人(R6)
	<主な事業> ○文化財保存活用地域計画の作成事業 ○史跡恭仁宮跡公有化事業	<所管課> 文化財保護課 文化財保護課
	②歴史文化遺産を活用した観光振興の促進 お茶の京都DMOやホテル・宿泊施設の立地が進む近隣市町と連携し、市が有する歴史文化資産や観光資源を活用したコースの設定等に取り組み、「交流人口」「関係人口」の増加や観光消費の拡大を図ります。また、いつでもどこでも出向いてお迎えをする、ヒト・モノの交流を生む潤滑油の場として「にぎわい」を創造する「キヅガワゴン」を活用した団体などが主催するイベントを創出・支援します。	キヅガワゴン活用イベント入込客数 28,570人(H30)→33,000人(R6)
	<主な事業> ○キヅガワゴン活用事業 ○山背古道関連事業 ○大仏鉄道関連事業 ○京都やましろ地域と東京しぶや連携交流事業	<所管課> 観光商工課 観光商工課 観光商工課 観光商工課
	③安心して観光できる案内機能の充実 観光客の利便性の向上を図るため、スマートフォン用のサイトの活用による情報発信を行い、「交流人口」「関係人口」の増加を目指します。また、インバウンド等に対応するため、多言語対応に取り組みます。	観光情報アプリ「きづがわなう」ユーザー数 1,372人(H30)→1,972人(R6) 多言語対応延べ新規取組件数 0件(H30)→5件(R6)
	<主な事業> ○観光情報アプリ事業「きづがわなう」	<所管課> 観光商工課
	④学研木津北地区の利活用 学研木津北地区において、まちの里地里山の景観・生物多様性の保全や地域づくり及び地域振興の資源として、里地里山環境の再生を進めます。また、生物多様性木津川市地域連携保全活動計画に基づき、各種団体などと連携し、里地里山保全活動への参加者の増加・定着に努めます。	里地里山保全活動参加者数 4,689人(H30)→5,000人(R6)
	<主な事業> ○地域連携保全活動応援団活動事業	<所管課> 都市計画課
	⑤山城町森林公園の利活用 森林を保全だけでなく活用を図り、自然環境の中にある山城町森林公園などを活用し、木育や癒しのある空間づくりのため、施設の改修や、多様な主体と協働した取り組みを通して、新たな誘客に取り組みます。	山城町森林公園利用者数 27,179人(H30)→31,000人(R6)
	<主な事業> ○山城町森林公園整備事業 ○山城町森林公園を活用した市民協働事業	<所管課> 農政課 農政課

6.3 「子育て支援 No.1」を目指した施策の充実

施策目標	○若い世代が多い木津川市において、子育て支援は、市総合戦略で掲げる将来都市像の実現のための根幹を成すものであり、重点的に取り組みます。 ○すべての子育て世代が、安心して子どもを産み育てことができるとともに、子ども自身が未来に向かってはばたくことができるよう「子育て支援 No.1」施策を充実させるため、「Society5.0」や「SDGs」等の、新しい時代の流れを力にした「子育て・子育ち」のまちづくりを推進します。	
	1.合計特殊出生率： 1.54(H26) → 1.8(R12) 2.年少人口（15歳未満） 13,075人(R1) → 13,663人(R6) 【子育て未来－KPI】 1.学校に行くのが楽しいと感じる小学生の割合：81.0%(R1)→ 83.0%(R6) 2.学校に行くのが楽しいと感じる中学生の割合：82.9%(R1)→ 84.0%(R6)	
KPI 目標 数値	詳細	重要業績評価指標(KPI) 現況値 → R6 目標値
施策	①安心して、楽しみながら子育てができる支援の充実 核家族化や共働き世帯の増加等、子どもとその家族を取り巻く様々な状況に対応できる社会づくりを進めます。特に安心して妊娠・出産ができ、すべての子どもが尊重され、健やかに成長できる子育て環境の充実を推進します。また、子どもの健やかな成長を促すため、市民全体が温かく見守る支援体制や、子どもが安全に遊べる場所づくりに取り組み、親がゆとりを持ち、子育ての不安を解消し、楽しみながら子育てできる環境づくりを推進します。	つどいのひろば利用者数 19,498人(H30) → 21,000人(R6) ファミリー・サポート・センター利用者数 405人(H30) → 500人(R6) 子育て支援アプリ「きづがわいい」ユーザー数 1,919人(H30) → 2,519人(R6)
	<主な事業> ○つどいのひろば事業 ○ファミリー・サポート・センター事業 ○産前・産後ケア事業 ○子育て世代包括支援センター「宝箱」事業 ○病児・病後児保育室「ひまわり」事業 ○子ども・子育て支援事業計画推進事業 ○子育て支援センター事業 ○子育て支援アプリ事業「きづがわいい」 ○第3子以降保育料等無償化事業 ○福祉医療費助成事業	<所管課> 健康推進課 健康推進課 健康推進課 健康推進課 健康推進課 こども宝課 こども宝課 こども宝課 こども宝課 国保年金課
	②保育ニーズの対応と待機児童ゼロの継続 子どもの幸福を基本に、子育て家庭の多様な要望等を踏まえ、利用しやすく充実した保育サービスの提供を進めます。また、待機児童が生じないよう、保育需要の変化等に応じた保育所等の運営のあり方や、安心して家庭で子どもを育てることができる保育支援体制の構築を進め、保育環境の充実を図ります。	待機児童数（0人を継続） 0人(H31) → 0人(R6)
	<主な事業> ○保育所・幼稚園運営事業（延長保育、一時預かり等） ○保育士確保対策事業	<所管課> こども宝課 こども宝課
	③新しい時代の流れを力にした最先端の教育環境の充実 未来ある子ども達の個性を活かしながら、社会の変化や国際化・情報化など、グローバルに対応できる人材育成を進めます。また、生きる力を育む学校教育、生涯にわたる人格の基礎を形成する幼児教育、副読本「わたしたちの木津川市」を活用した歴史文化遺産や研究施設からの地域の特徴を学ぶ郷土教育等の取組みを進め、まちに誇りと愛着の持てる教育を推進します。	小中学校タブレット導入率 0% (R1) → 100% (R6)
	<主な事業> ○小中学校タブレット導入事業 ○小学校英語指導講師事業 ○夏休み英語レッスンイベント事業 ○木津川市特色ある学校づくり推進事業 ○ICT機器を活用した「ふるさと発見・体験・発信」事業 ○食育推進事業	<所管課> 学校教育課 学校教育課 学校教育課 学校教育課 学校教育課 学校教育課

6.4 小さな拠点を活用した誰もが活躍できる個性と魅力あふれる地域コミュニティの充実

施策目標	○世代や地域、居住歴、興味・関心など、異なる背景をもつ多様な人が結びつきながら居住する状況を活かし、市ならではの個性と魅力が溢れる地域コミュニティづくりに取り組みます。 ○特に、地域で暮らす人々が、地域活動を楽しみ、また子育て世代が子どもたちとともに地域と繋がるよう、小さな拠点（多世代交流・多機能型）づくりや、安心・安全な地域づくりに重点的に取り組むことで、子育て・子育ちのまちづくりを推進します。	
KPI 目標 数値	1.市外からの滞在人口数：54,968 人／日(H30) → 57,716 人／日(R6) 【子育て未来－KPI】 「通勤・通学の交通の便利さ」に対する満足度：31.9%(H30) → 35.0%(R6)	
	詳細	重要業績評価指標(KPI) 現況値 → R6 目標値
施策	①地域公共交通ネットワークの充実 木津川市の地域特性に応じて地域公共交通ネットワークを最適なものに改善し、地域公共交通ネットワークを活用した魅力的で利便性の高いまちづくりを進めます。鉄道については、利用者の視点に立った利便性・安全性の向上や学研都市の発展促進のため、鉄道網の充実を関係機関に積極的に働きかけます。また、コミュニティバスについては、持続可能な運行を目指して、継続的な維持・改善に取り組みます。さらに、NPO 法人などの団体が高齢者や障がい者などへのサービスとして実施している「福祉有償運送」についても支援を行います。	公共交通利用者数 1,377 万人(H30)→1,400 万人(R6) 公共交通全体の満足度 (加重平均値・5段階評価) 2.27(R1)→3.00(R6) コミュニティバス利用者数 249,850 人(H30)→270,000 人(R6)
	<主な事業> ○コミュニティバス運行事業	<所管課> 学研企画課
	②公共施設の利活用 地域の産業振興、地域コミュニティの再構築、定住支援など多様な機能を総合的に整備し、地域の活性化に取り組みます。また、「当尾の郷会館」においては、地域住民が集える場、市内外の都市住民との交流を創出する場、民間活力を活用した地域課題等に取り組む地域の複合的な多機能拠点とし、地域の活性化を図ります。	当尾の郷会館利用者数 9,455 人(H30)→13,000 人(R6) 当尾クリエーションプロジェクト参加者数 0 人(R1)→500 人(R6)
	<主な事業> ○当尾地域力創造プラン推進事業 ○当尾クリエーションプロジェクト事業 ○庁舎長寿命化計画事業 ○加茂支所有効利活用事業	<所管課> 観光商工課 観光商工課 総務課 財政課
	③安心・安全な暮らしの向上 子どもをはじめとした全ての市民を犯罪や事故の被害から守るために、防犯カメラの設置に取り組むとともに、防犯活動などに取り組む地域や団体と連携し、啓発活動を推進します。また、自主防災組織のさらなる結成促進や地域の防災リーダーとなる人材育成として防災士の養成に努め、市民の防災意識の高揚、災害対応力の強化に取り組みます。	自主防災組織率 71.5%(H30)→85%(R6) 自主防災組織活動回数 285 回(H30)→330 回(R6) 防災士資格取得延べ人数 0 人(H30)→120 人(R6)
	<主な事業> ○安心・安全防犯カメラ設置事業 ○防災士資格取得事業	<所管課> 危機管理課 危機管理課

6.5 地元教育機関や企業との連携によるまちの活性化

施策目標	<p>○京都大学大学院農学研究科附属農場をはじめとする様々な教育機関等と連携し、講座や体験学習会を通して農業への親しみを深めるとともに、ブランド農産品など、新たな魅力の創造によるまちづくりの活性化に取り組みます。</p> <p>○特に、子どもたちが、興味を持ち楽しめる講座や体験学習会のプログラムを通して、最先端の科学技術に対する知識を身につけるとともに、地域の特色・文化等を学び、大人になっても木津川市に住みたいと思ってもらえるよう、まちへの愛着・U/I ターン意向の醸成に重点的に取り組むことで、子育て・子育ちのまちづくりを推進します。</p>	
KPI・目標数値	<p>1. 京都大学大学院農学研究科附属農場との延べ連携事業数：0件(H30)→ 1件(R6)</p> <p>【子育て未来-KPI】 中学生しごと・職場体験受入事業所数：205事業所(R1) → 230事業所(R6)</p>	
施策	詳細	重要業績評価指標(KPI) 現況値 → R6 目標値
	①京都大学大学院農学研究科附属農場等との連携 京都大学大学院農学研究科附属農場と連携し、市民農業大学や市民体験学習会の開催、また、ブランド農産品の共同開発・育成などに取り組み、まちの「食」の情報発信に努め、まちの認知度・知名度向上に取り組みます。	京都大学大学院農学研究科附属農場オープンファーム参加者数 868人(R1) → 1,000人(R6)
	<p><主な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ ブランド農産品開発支援事業 ◦ (仮称) フードバレー構想事業 	<p><所管課></p> <ul style="list-style-type: none"> 農政課 学研企画課
	②立地企業との協働や様々な教育機関との連携 京都府立木津高等学校をはじめとする教育機関と連携し、地域資源を生かした教育活動や、まちの歴史文化の学習会の開催に取り組むと共に、中学生によるまちづくりへの施策提案などに取り組み、まちへの愛着を深め、地域に根ざした時代のリーダーを創出します。また、地方創生のさらなる充実・強化に向け、立地企業をはじめとする企業とのパートナーシップの構築を目的として、企業版ふるさと納税制度の導入等を進めます。	大学生インターンシップ受入者数 3人(R1) → 6人(R6)
<p><主な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 中学生職業体験事業 ◦ 木津高校による農産物等販売事業 		<p><所管課></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育課 学研企画課

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



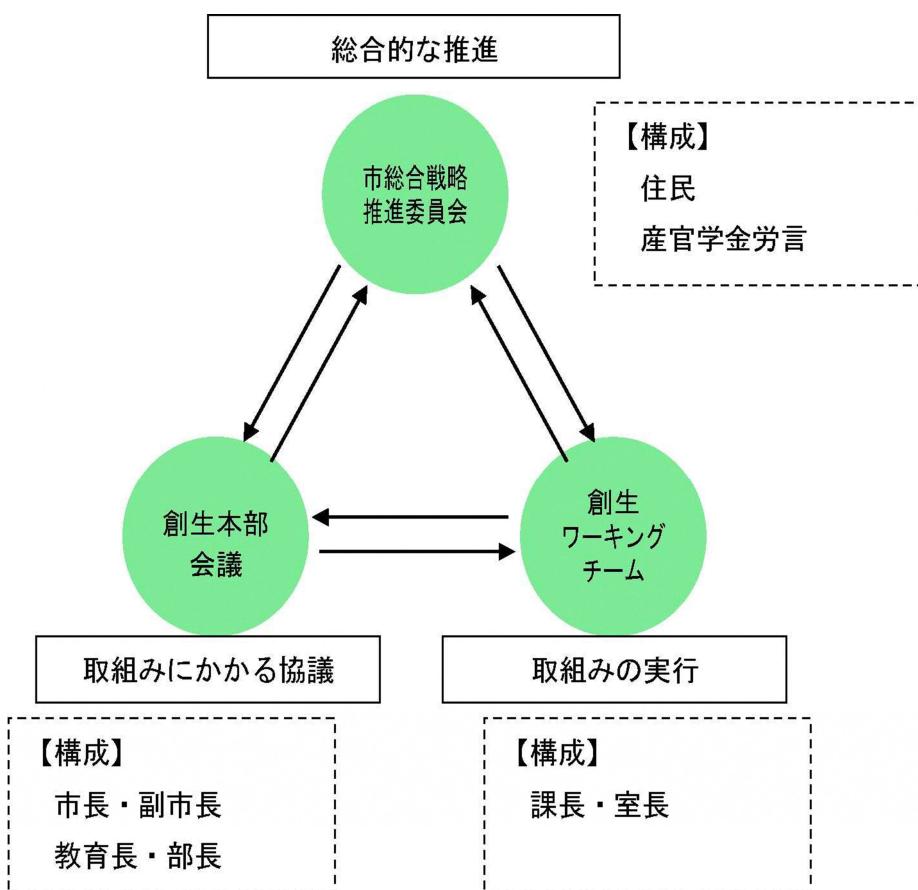
6.6 まちづくりに取り組む、取り組もうとする人材の支援・創出

施策目標	○木津川市の将来を担う、まちづくりのリーダーや地域創生の基盤となる人材の育成に取り組むとともに、まちに関する情報サイトを設置し、移住・定住を促進するなど、これまでのまちづくりの成果を将来にわたって受け継げるような支援に取り組みます。 ○特に、まちを担う若い世代や子供が楽しみながら参加できるまちづくりを通して、マチオモイの意識を醸成するとともに、社会のグローバル化等に対応した、国際感覚をもった人材の育成に取り組むことで、子育て・子育ちのまちづくりを推進します。	
KPI目標数値	1. マチオモイな仲間たち(農で頑張る協議会) : 89 人(H30) → 100 人(R6) 2. まちへの愛着度 : 72.5%(H30) → 75.0%(R6) 【子育て未来-KPI】 1. 中学生アンケートにおける住みよさ満足度 : 77.0%(H29) → 80.0%(R6) 2. 中学生アンケートにおける定住意向率 : 40.4%(H29) → 45%(R6)	
施策	詳細	重要業績評価指標(KPI) 現況値 → R6 目標値
	①多様・多彩な、人と人とのつながりのあるまちづくりの実現 多様・多彩な市民の豊かな経験や英知をまちづくりに活かすための仕組みづくりや人材の支援・創出を目的に、ふるさと応援事業として採択された郷土愛等を活かした市内で頑張る取組みや農で頑張る協議会等が継続されるよう、定期的な意見交換会等を通じて、まちづくりへの情報共有や多様な主体とのマッチングなどの支援に取り組みます。 <主な事業> ○ふるさと応援事業団体等意見交換会事業 ○地域農業活性化事業（農で頑張る協議会）	農で頑張る協議会地場コーナー売上高 1,248 千円(H30)→14,400 千円(R6)
	②伝統産業やアートを中心としたヒトづくり 市内事業者の高度な技術や、歴史・文化、豊かな地域特有の伝統産業などを積極的にPRするとともに、観光協会などの情報発信・資源掘り起し活動を支援します。また、市が有する豊かな歴史、自然環境や文化の中に「現代アート」を取り入れた「木津川アート」を開催することで、新たな観光魅力の創出、新たな視点を加えた地域活性化に取り組みます。	木津川アート来場者数 11,872 人(H30) → 12,000 人(R6)
	<主な事業> ○木津川アート事業 ○ものづくりフェア事業	<所管課> 観光商工課 観光商工課
	③移住・定住の促進 市民をはじめ、市内への移住希望者や来訪者に、まちの自然や豊富な歴史文化遺産、農産物などの魅力とともに、子育て、教育、文化、福祉などの暮らしに関する情報を広く発信します。また、地域団体とともに木津川市の様々な魅力に触れ、交流のきっかけとなる体験ができるツアーを企画するなど、移住と定住を積極的に支援します。	空き家バンク延べ登録件数 10 件(H30)→34 件(R6) 空き家バンク延べ成立件数 6 件(H30)→12 件(R6) 移住支援事業補助金延べ交付件数 0 件(H30)→ 5 件(R6)
	<主な事業> ○空き家バンク事業 ○移住支援事業補助金交付事業	<所管課> 学研企画課 観光商工課
	④健康長寿のまちづくり 高齢者をはじめとした市民の主体的なサークル活動・ボランティア活動や、地域内の仲間づくり等の多種多様な社会参加の促進を支援します。また、市民が長寿社会のもとで健やかな生活が営めるよう生活習慣の改善などの健康寿命を伸ばす取り組みを進めます。	ヘルスデザイン事業延べ参加者数 0 人(H30)→600 人(R6)
	<主な事業> ○ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯を励ます会事業 ○フレイル予防促進事業	<所管課> 高齢介護課 健康推進課

7. 推進体制、効果検証の仕組み

7.1 推進体制

○推進体制としては、住民代表や産業界・行政機関・大学・金融機関・労働団体・マスメディア（産官学金労言）で構成する「市総合戦略推進委員会」、市長・副市長・教育長・部長で構成する「創生本部会議」、所属長で構成する「創生ワーキングチーム」の3組織を設置し、互いに連携を図りながら、戦略の推進に取り組みます。



7.2 効果検証

○個々の施策については、その進捗・達成状況の評価、及び適切な見直し・改善を行なうため、PDCAサイクルに基づく管理を実施します。

○木津川市の総合的な発展・振興を目指す市総合計画との整合性から、管理体制については、市総合計画の進捗・達成状況評価の仕組みを活用し、効率的かつ確実な管理に努めます。

資料



1. 木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 委員名簿

木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 委員名簿

(順不同・敬称略)

	区分		氏名	備考
1	2号委員	有識者	会長 真山 達志	同志社大学政策学部教授
2		有識者	副会長 今里 佳奈子	龍谷大学政策学部教授
3	3号委員	産業	市川 浩之	農業：木津川市認定農業者
4			畠上 拓也	商工：木津川市商工会青年部長
5		地元大学	中崎 鉄也	京都大学大学院農学研究科教授
6		金融機関	吉田 慎太郎	(株)南都銀行 木津支店長
7		労働機関	長尾 達也	京都田辺公共職業安定所 木津出張所長
8		情報誌	姜 京希	NPO 法人 子育て info.
9		学研都市	松尾 有基	(株)エム・システム技研
10		歴史資源活用	佐脇 貞憲	海住山寺
11		観光	西村 正子	NPO 法人ふるさと案内・かも
12		生涯学習	三上 かず子	社会教育委員
13		子育て	川崎 あき	子育てママカフェ
14			新谷 まさこ	子育てと仕事. com
15		特産品開発	浦辻 克碩	当尾地域加工場
16		人材支援・創出	福田 藍	キチキチプロジェクト
17		魅力発信	大倉 竹次	(株)Aluco
18		行政	澤田 晋治	京都府山城広域振興局企画振興室長

2. 策定経過

2.1 まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会・本部会議

会議	開催日	主な議題
第1回木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会	令和元年7月29日	(1)平成30年度地方創生事業の効果検証について (2)令和元年度地方創生事業の取り組み内容について (3)総合戦略に係る今後のスケジュール
第2回木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会	令和元年11月21日	(1)第1期総合戦略KPIの達成状況について (2)第2期総合戦略策定方針について
第1回木津川市まち・ひと・しごと創生本部会議	令和元年12月18日	(1)第2期総合戦略策定方針について
第3回木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会	令和2年1月16日	(1)ワークショップ結果について (2)第2期総合戦略骨子案について
第2回木津川市まち・ひと・しごと創生本部会議	令和2年1月27日	(1)第2期総合戦略骨子案について
第4回木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会	令和2年1月31日	(1)第2期総合戦略中間案について
第5回木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 (書面決議)	令和2年3月23日	(1)第2期総合戦略案について
第3回木津川市まち・ひと・しごと創生本部会議	令和2年3月25日	(1)第2期総合戦略案について

2.2 市民参加の取組み(ワークショップ)

取組み	開催日	主な内容
木津川市・まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るワークショップ	令和元年12月20日	(1)まちの現状や課題について、まち・ひと・しごとの創生に係る取組みアイデアの提案についての意見交換 (2)多様な分野で活躍する参加者の分野間交流

3. 第1期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 中間評価

<評価基準>

評価	内容
A	非常に効果的であった(達成率が100%以上)
B	概ね効果的であった(達成率が80%以上)
C	効果的であった(達成率は低いが、事業開始前よりも前進・改善したもの)
D	効果がなかった(実績値が開始前よりも後退・悪化したもの)

<取組み事業実施KPI一覧>

	基本目標	施策目標	数値目標(KPI)				子育て未来-KPI				施策					
			項目	目標	実績	達成率	項目	目標	実績	達成率	施策項目	項目(KPI)	策定期	目標	実績	達成率
1	学研都市としての特性を活かした産業の活性化・都市近郊農業の振興・活性化・企業誘致・立地による雇用と就業の創出	○最先端の研究成果が集う学研都市の特色を活かした企業集積や都市近郊農業の活性化を図りながら、雇用と就業の創出に取り組みます。 ○特に、企業などが取り組む子育て環境の整備に対する支援(子育てサポート企業(厚生労働省)の認定への応援など)や、学校給食における安心安全な地域農産物の提供に重点的に取り組むことで、子育て・子育ちのまちづくりを推進します。	1. 就業者数(人)	32,277	32,271	99.98% B	子育てサポート企業(厚生労働省)認定支援延べ件数(件)	5	7	140.00% A	① 最先端の研究成果を活かした新産業・新事業の創出	事業所立地件数(学研エリア)(所数)	22	28	27	96.43% B
			2. 首都圏での新たな市内産農産物流通量(トン)	21	7.9	37.6% C					② 安定した付加価値の高い農業の振興	学研区域の未活用産業用地の割合(%)	64.6	41.6	40.0	116.00% A
											地産地消推進の店認定店舗数(店舗)	0	70	12	17.14% C	
											農林産物直売所件数(箇所)	6	8	12	150.00% A	
											新規就農者数(人)	6	11	12	109.09% A	
											市内事業所数(事業所)	1,381	1,400	1,878	134.14% A	
2	交流人口の増加、地域住民による「地域活性化・観光」の展開	○地域に暮らす人々が市の魅力を再発見するとともに、それを活用することで新たな魅力を醸成し、地域内外の多くの人と交流できるよう、魅力の創造と人々の交流促進に取り組みます。 ○特に、子どもたちが、まちへの愛着を深めることができ木津川市の歴史文化遺産を活用した学習プログラム、里地里山を活用した婚活事業や多世代間交流の促進などに重点的に取り組むことで、子育て・子育ちのまちづくりを推進します。	1. 観光入込客数(人)	1,000,000	965,000	96.50% B	里地里山などを活用した多世代交流や婚活イベント支援延べ件数	5	13	260.00% A	① 歴史資源などの保全・活用によるまちづくり	高麗寺跡整備率(%)	34.0	70.0	81.0	115.71% A
			2. 観光消費額(千円)	2,215,000	2,110,000	95.26% B				② 観光地の回遊システムの構築支援	プロモーション映像閲覧者数(人)	0	4,000	16,578	414.45% A	
										③ 安心して観光できる案内機能の充実	コミュニティバスツアーユーザー数(人)	0	150	2,000	1333.33% A	
										④ 学研木津北地区の利活用	公衆無線LAN延べ利用者数(人)	0	7,800	26,999	346.14% A	
											デジタルツール延べ利用者数(人)	0	1,000	3,291	329.10% A	
											里地里山保全活動延べ参加者数(人)	3,783	5,000	4,689	93.78% B	
3	「子育て支援No.1」を目指した施策の充実	○若い世代が多い木津川市において、子育て支援は、市総合戦略で掲げる将来都市像の実現のための根幹を成すものであり、重点的に取り組みます。 ○すべての子育て世代が、安心して子どもを産み育てることができるとともに、子ども自身が未来に向かってはばたくことができるよう「子育て支援No.1」施策の充実、子育て情報を発信するための子育てサイト・アプリの充実などに取り組むことで、子育て・子育ちのまちづくりを推進します。	1. 合計特殊出生率	1.8	集計中		「保育、子育てを支援するサービス」に対する満足度(%)	33.8	23.7	70.12% C	① 安心して、楽しみながら子育てができる支援の充実	つどいのひろば利用者数(人)	6,800	7,000	19,496	278.51% A
										② 保育の「質」向上と待機児童ゼロの継続	ファミリーサポートセンタ一年間利用数(日/人)→(件)	90	125	405	324.00% A	
										③ ICT 教育など最先端の教育環境の充実	年少(15歳未満)人口(人)	12,600	12,650	13,091	103.49% A	
										④ 食育に関する講習会等延べ参加者数(人)	待機児童数(0人を継続)(人)	0	0	0	100.00% A	
											12歳以下の人口(人)	5,500	5,580	5,638	101.04% A	
											食育に関する講習会等延べ参加者数(人)	128	200	25	12.50% D	
4	小さな拠点を活用した個性と魅力あふれる地域コミュニティの充実	○世代や地域、居住歴、興味・関心など、異なる背景を持つ多様な人が結びつきながら居住する状況を活かし、市ならではの個性と魅力が溢れる地域コミュニティづくりに取り組みます。 ○特に、地域で暮らす人々が、地域活動を楽しみ、また子育て世代が子どもたちとともに地域で繋がるよう、小さな拠点(多世代交流・多機能型)づくりや、安心・安全な地域づくりに重点的に取り組むことで、子育て・子育ちのまちづくりを推進します。	1. 市外からの滞在人口数(人)	52,000	54,968	105.71% A	「通勤・通学の交通の便利さ」に対する満足度(%)	39.7	31.9	80.35% C	① 地域公共交通ネットワークの充実	コミュニティバス年間利用者数(人)	264,839	300,000	249,850	83.28% C
			2. まちへの愛着度(%)	73.0	72.5	99.32% B				② 公共施設の有効活用	コミュニティバスに対する総合満足度(5段階)	3.09	3.30	3.01	91.21% C	
										③ 伝統的まちなみや景観の保全と活用	小さな拠点(加茂支所)における交流者数(人)	120,000	140,000	118,127	84.38% C	
										④ 安心・安全な暮らしの向上	当尾の郷会館利用者数(人)	7,900	12,800	9,455	73.87% C	
											環の拠点来場者数(人)	0(0)	10,000(一)	(28,570)	— —	
											空き家活用プランの作成	未策定	策定	策定	A	
5	地元教育機関や企業との連携によるまちの活性化	○京都大学大学院農学研究科を始めとする様々な教育機関等と連携し、講座や体験学習会を通して農業への親しみを深めるとともに、ブランド農産品など、新たな魅力の創造によるまちの活性化に取り組みます。 ○特に、子どもたちが、興味を持ち楽しめる講座や体験学習会のプログラムを通して、最先端の科学技術に対する知識を身につけるとともに、地域の特色・文化等を学び、大人になっても木津川市に住みたいと思ってもらえるよう、まちへの愛着・U/Iターン意向の醸成に重点的に取り組むことで、子育て・子育ちのまちづくりを推進します。	1. 京都大学との講座・体験学習の連携実績(件)	21	18	85.71% B	しごと・職場体験学習延べ活動日数(日)	100	85	85.00% B	① 京都大学大学院農学研究科との連携	市民農業大学講座受講生(人)	0	100	12	12.00% C
			2. 木津川ブランド農産品開発数(品)	2	12	600.0% A				② 立地企業や様々な教育機関との連携	農業等体験学習会延べ参加者数(人)	0	300	868	289.33% A	
										③ フードパレード構想計画書	未策定	策定	未策定	D		
										④ プロデュースプロジェクト事業の継続(件)	立地企業や様々な教育機関との連携	5	5	10	200.00% A	
										⑤ 企業・教育機関との新たな連携延べ事業数(件)	企業・教育機関との新たな連携延べ事業数(件)	0	5	5	100.00% A	
6	まちづくりに取り組む、取り組もうとする人材の支援・創出	○木津川市の将来を担う、まちづくりのリーダーやキーマンとなる人材の育成に取り組むとともに、まちに関する情報サイトを設置し、移住・定住を促進するなど、これまでのまちづくりの成果を将来にわたって受け継いでいるような支援に取り組みます。 ○特に、まちを担う若い世代や子どもが楽しみながら参加できるまちづくりを通して、マチオモイの意識を醸成するとともに、社会のグローバル化等に対応した、国際感覚を持った人材の育成に取り組むことで、子育て・子育ちのまちづくりを推進します。	1. マチオモイな仲間たちの支援・創出実績(人)	60	89	148.33% A	中学生アンケートにおける住みよさ満足度(%)	85.0	77.0	90.59% C	① 多様・多彩な、人ととのつながりのあるまちづくりの実現	地場産品を活用した新商品の開発	未開発	商品化	商品化	A
			2. 定住意向率(%)	71.0	—	— D				② 歴史文化遺産等の情報発信によるまちづくり	木津川アート来場者数(人)	8,500	9,000	11,872	131.91% A	
				(—)	(40.4)					③ まちに関する情報サイトの設置による移住・定住の促進	当尾地域活性化計画	未策定	策定	策定	A	
											ICT(愛・シティ)ライフ戦略参加登録者数(人)	0	10,000	0	0.00% D	

4. 用語集

A - Z

・K P I

Key Performance Indicator の略。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標のこと。地方版総合戦略においては、原則として実現すべき成果（アウトカム）に係る指標を設定するが、行政活動そのものの結果に係る指標を設定することも差し支えない」とされている。

・P D C Aサイクル

マネジメントサイクルの 1 つで、計画(plan)、実行(do)、評価(check)、改善(action) のプロセスを順に実施すること。最後の action では check の結果から、最初の plan の内容を継続(定着)・修正・破棄のいずれかにして、次回の plan に結び付ける。この螺旋状のプロセスを繰り返すことによって、品質の維持・向上および継続的な業務改善活動を推進する。

Plan	数値目標・客観的な指標を設定した効果的な地方版総合戦略を策定する。
Do	地方版総合戦略に基づく施策を実施する。
Check	数値目標や客観的な指標の達成度を通じて、地方版総合戦略の成果を客観的に検証する。
Action	検証結果を踏まえて施策を見直すとともに、必要に応じて、地方版総合戦略を改訂する。

・S D G s

Sustainable Development Goals の略で、日本語では「持続可能な開発目標」と訳される。2015 年 9 月に 193 のすべての国連加盟国が、2030 年に向けて採択した目標（2030 アジェンダ）で、持続可能な開発に関する地球規模の優先課題や世界のあるべき姿を明らかにし、地球規模の取り組みを行おうとするもの。「持続可能な開発」とは、経済開発と人々のニーズを充足し、環境を守りながら成長とのバランスを取っていくこと。

・Society5.0

サイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）のこと。

ア行

・空き家バンク

「空き家バンク」とは、空き家の賃貸・売却を希望する人から申込みを受けた情報を、空き家の利用を希望する人に紹介する制度のこと。市町村が運営する市町村空き家バンクは、空き家の有効活用を通じた「定住促進による地域の活性化」を図ることなどを目的としている。

カ行

・子育て未来－K P I

市総合戦略における戦略の柱である『子育て』を推進し、子育て・子育ちのまちづくりを充実していくため、木津川市として独自に設定した「特に重点的に取り組む目標値」のこと。

・関係人口

移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。

タ行

・小さな拠点

小学校区など複数の集落が集まる地域において、商店、診療所などの生活サービスや地域活動を、歩いて動ける範囲でつなぎ、各集落とコミュニティバスなどで結ぶことで、人々が集い、交流する機会が広がっていくといったような、新しい集落地域の再生を目指す取組みのこと。

ハ行

・フレイル

加齢とともに運動機能や認知機能が低下してきた状態のこと。要介護に至る前の状態と位置づけられ、日本老年医学会が frailty (虚弱) の訳として平成 26 年 (2014) に提唱した語。

マ行

・マチオモイ

まちに愛着を持ち市民と行政が一緒になり魅力を発信していく思いのこと。木津川市では、平成 27 年 6 月、地元農産物の情報発信など、市のブランド力を高め魅力を発信することを目的とした新たな組織「マチオモイ部」を設置している。